

ポスト・YouTube 時代、学術・文化の「サイエンス・オアシス」を創る

～ 写真 & 映像制作からネットTV局へ、新しい社会装置を創造中～

サイエンス映像学会の設立をめざして

「サイエンス映像学会」設立に向けてのシンポジウムが12月16日に東京大学弥生講堂で開かれた。この学会では最先端科学を研究する科学者、テレビ番組の映像制作者、小・中・高校・大学・大学院の教員、企業の広報と機器開発担当者らが対等に意見交換・共同研究をする。「科学創造立国・日本」という国是が掲げられているが、次世代を担う子ども達には理科離れが進んでいる憂慮すべき日本の現状に対して、アニメやCG映像の力を駆使して「百聞は一見にしかず」を学術分野で活かすことをめざす。

エンターテインメント性も駆使しながら未知の科学を学ぶ

サイエンス映像とは、解説を主体とした科学映画ではなく、エンターテインメント性をも駆使しながら未知の科学を学んでいく番組などをインターネットで放送することを総称している。例えば、ハリウッド映画の「2001年宇宙の旅」、NHK番組の「驚異の小宇宙・人体」、チャールズ・レイ・イームズの「パワーズオブテン」、手塚治虫の漫画「火の鳥」「ブラックジャック」「鉄腕アトム」など、テーマの科学性と表現技法などをネット時代に引継ぎ、約10分のショートムービーを創る実証実験を始めている。

放送界の改革に遅れた日本

米国の放送界には80年代に大きな変革があった。24時間ニュースを流すCNN、ケーブルテレビ局から始まったサイエンス映像専門のディスカバリーチャンネルなどが有料放送として良質な映像を世界に配信した。それは世界中で多くの人々の支持を集め、ディスカバリーは147カ国1億6千万世帯が見る巨大な情報文化産業に成長した。しかし、日本では視聴率優先から多くがバラエティ番組化され、捏造によるエセ科学番組で社会的な問題を起こす体質に陥り、世界に発信していく力が欧米や中国・韓国に比べても弱い。規制に守られ孤立主義に甘んじる日本のテレビ界の現状である。

手塚治虫の漫画はサイエンスの視点を持つ

このような憂慮すべき現状と子ども達の理科離れは無縁ではない。「鉄腕アトム」に見る未来への希望からロボット科学者になった人が多いのは、手塚治虫が幼少時代を過ごした宝塚での自然観察体験や大阪大学医学部で学んだ正確な科学知識を土台に漫画の世界が描かれたことと関係している。それから約40年を経て、漫画も含め映画・テレビ番組・CGアニメの技術を駆使したサイエンス映像をインターネットで見る時代が来ており、2008年4月に「サイエンス映像学会」（養老孟司会長）が設立される。

中国・韓国にもサイエンス映像の波動が

サイエンス映像への関心は中国や韓国でも広がりを見せている。5年以内に有人の月面着陸をめざす中国の科学発展はめざましく、人口13億人の中で経済発展による貧富の差を縮小するためにも最先端の科学技術をサイエンス映像化して啓蒙していく必要性に迫られている。韓国ではこの10年でアニメ産業の制作拠点を日本から韓国へと移動させること成功したが、現在はその拠点が人件費の安い中国・上海に再移動している。この空洞化する状況をカバーするためにも急速にサイエンス映像への関心が高まっている。CGアニメ等のクリエイターが持つ技術は多くがサイエンス映像の制作に転換できるために、大学のアニメ制作カリキュラムにサイエンス映像の科目が入れられようとしている。

多様な分野における映像活用の要請

日本の学校でも映像を使った理科教育の改革が求められ、司法の場でも科学者と企業が特許権めぐり市民信審員に対して映像での立証が求められることが始まった。ポストYouTube時代は正確で娯楽性にも富んだサイエンス映像が求められ、多様な分野においても映像活用の要望が高まり、要として「サイエンス映像学会」が設立されることになった。